



令和 8 年度 社会科実践・研究計画

部 員 ○山崎泰明

I 社会科における 自律した学習者の姿

- 1 資料や社会的事象を基に課題をもち、解決への見通しをもつ姿
- 2 自らの学習状況を見つめ、調べ直したり考え直したりしながら社会的事象を追究している姿
- 3 根拠や理由を明確にしてまとめ、自分の意見や提案を説明している姿

II 社会科における 授業デザインの取組

- A 複数の資料と日常生活につながる事象等、価値ある問いを生み出せるような資料提示をする。
- B 社会的事象についての互いの考えのずれや曖昧さを情報交換によって焦点化し、全体で共有する場をもつ。
- C まとめを基に、問題の解決や自らの生活への活用を意識した、自分なりの考えや提案を述べる場面をゴールとする単元構想を工夫する。

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	社会的事象の課題解決に向けて、自分は、家族はどうしたらよいのかという切実感のある課題をもっている姿 (1、2)	社会的事象についての理解を深めるだけでなく、課題解決のために取り組む人や課題に直面した生活をしている当事者の思いを知ること、課題がより明確にもてるような資料を精選し提示したこと (A、C)
	社会的課題解決への対策や取組について意欲的に調べ、相手の気持ちに訴えかける伝え方を工夫する姿 (2、3)	単元全体の見通しをもって活動できるように、ゲーミフィケーションを取り入れたまとめの活動を単元のゴールにしたこと (A、B、C)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	明確な課題をもち、単元のゴールに向かって追究することはできたが、それぞれが調べた内容や考え方を適切に交換したりそれを基に改善したりできないでいる姿 (2)	情報交換からの改善を図る意識を高めるために、個別の課題を追究する学びと協働で情報交換や話し合いを進めていく時間を計画的または適時に設定する。 (B、C)